

**科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業  
次世代研究者育成プログラム  
(実施期間：平成 26～令和 3 年度)**

**コンソーシアム名：未来を拓く地方協奏プラットフォーム**

**代表機関：広島大学（総括責任者：越智 光夫）**

**共同実施機関：山口大学、徳島大学**

**取組の概要**

中国四国地方の大学等を中心としたコンソーシアムを構築し、広島大学、山口大学、徳島大学が共同してテニュアトラック研究者を公募、選考し、より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集める。また、多様な雇用・流動形態（クロスアポイントメント、ラボローテーション等）の導入により、若手研究人材が異なる知と交わり、ネットワークを構築できるように支援するとともに、女性枠を設定し、女性の活躍促進につなげる。

博士課程（後期）学生を含む若手研究人材が、地域や国際社会を変革するイノベーターとして自立できるよう、実践的な人材の養成・活躍を可能とするプラットフォームを各大学等で共同して構築する。また、トランスファラブルスキルの養成に必要なリソースの共有を図り、シーズ・ニーズのマッチングにより、インターンシップ、就職、共同研究等の機会を増やす。

若手研究人材の養成・活躍を通じて、コンソーシアム内外の知の循環を加速させ、地域全体の社会的課題の解決やイノベーションの創出を図り、地方再生につなげる。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況 (全般)	進捗状況 (システム構築)	進捗状況 (取組の内容)	体制構築	今後の進め方
S	s	s	a	a	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラムを各大学内に定着させ、メンター制度および URA が有効に活用されてコンソーシアム教員のキャリア構築に貢献したことは有意義であった。また、コンソーシアム連携機関については提案時 17 機関であったが、65 機関まで増加したことは、その波及効果も含めて高く評価できる。補助期間終了後もコンソーシアム教員の国際公募や女性限定公募を実施して研究者の多様性を確保したことは高く評価できる。イノベーション創出人材育成のため、長期インターンシップ、未来博士 3 分間コンペティション、若手研究人材ポートフォリオ等の取組が継続されている点は評価できる。広島大学が中心となった新たな若手育成プロジェクトがスタートしており、地域としての本コンソーシアム事業の継続が期待できる。

・**進捗状況（全般）**：テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラムを 3 つの実施機関に定着させ、補助期間終了後も採用・育成を継続し、8 年間の補助事業期間に目標育成者数 60 名を達成した点は高く評価できる。そのうち女性 32 名、外国籍 12 名と多様な人材の育

成を行ったことも評価できる。既に約半数のコンソーシアム教員が安定的な職に就いていると認められる。

・**進捗状況（システム構築）**：コンソーシアムとして、全ての育成教員に2名以上のメンターを配置して手厚い支援を行った。共同で若手研究者向けの研修を行う仕組みを整えており、必要に応じて情報提供・指導を行い、セミナーや研修を実施したことは評価できる。コンソーシアム実行委員会がコンソーシアム教員に対して中間評価、最終評価等を実施し、テニユア審査は適切に実施された。

・**進捗状況（取組の内容）**：実施機関ごとに募集する研究分野・人数・職階が提案され、コンソーシアム運営協議会において決定した後、国際公募・選考を行い、実施機関での採用を行った。コンソーシアム教員は実施機関においてテニユアトラック制、年俸制のもと、自立的な研究環境が与えられたことは評価できる。イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムとして、未来博士3分間コンペティション、トランスフェラブルスキル養成講座、長期インターンシップ派遣等を実施し成果を上げている。キャリアデザインに関する組織を設置し、キャリアパスの多様化を支援する取組を行ったことは評価できる。

・**体制構築**：運営協議会、および実施機関としてコンソーシアム実行委員会を設置し、運営は円滑に行われ、若手研究人材に多様な活躍の場を有効に提供した。コンソーシアム連携機関については提案時17機関であったが、65機関にまで増加したことは、その波及効果を評価できる。他機関の有識者に外部評価委員を委嘱し評価を受け、事業の改善に努めたことは評価できる。

・**今後の進め方**：事業期間終了後も若手研究者関連プログラムが維持され、今後もコンソーシアム教員の最終審査まで本事業の枠組みが継続されることは高く評価できる。文部科学省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」において広島大学を代表機関とする「HIRAKU-Global」が採択されており、中国・四国地域の他大学と課題認識を共有しつつ、連携して本取組が継承されていくことが期待される。